

＜日本文学・言語・文化＞国際研究フォーラム——知と体験

時間	プログラム				会場
9:00-9:30	受付				至善楼 13F
9:30-9:40	開会式				
9:40-10:30	基調講演 「東アジアの文学交流——鲁迅と日本の近代作家」 講演者 藤井省三（東京大学教授） 司会者 林淑丹（文藻外語大学教授・学科主任）				至善楼 15F 國璽會議廳
10:30-10:50	休憩				
10:50-11:50	研究フォーラム 「東アジアの中の文学者——知と体験」 パネリスト 藤井省三（東京大学教授） 林水福（南台科技大学教授） 朱秋而（台湾大学教授） 林淑丹（文藻外語大学教授・学科主任） 司会者 段裕行（文藻外語大学助理教授）				至善楼 15F 國璽會議廳
12:00-13:30	昼食				至善楼 16F
	論文発表（発表20分、コメント5分、討論10分）				
	文学	日本語学・教育		歴史・社会・文化	
	会場 A Z1211	会場 B Z1307	会場 C Z1308	会場 D Z1309	会場 E Z1310
13:30-14:10	発表者 盧秀滿 （文藻外語大学副教授） 日本の漢文小説《賢乎己》の研究 コメンテーター 頼衍宏 （靜宜大学副教授）	発表者 陳美玲 （東吳大学副教授） 話しことばにおける接続表現の習得についての事例分析 コメンテーター 頼錦雀 （東吳大学教授）	発表者 小高裕次 （文藻外語大学助理教授） スピーチ・ディベートの引用資料からみる台湾人学生のメディアリテラシー コメンテーター 陳志文 （高雄大学教授）	発表者 黃幼欣 （南台科技大学副教授） 一次資料で紐解く日本統治下台湾の紙芝居の展開—台南の末広公学校の実践活動を中心に コメンテーター 林嘉惠 （東海大学副教授）	発表者 范如苑 （台南大学助理教授） 日本の写真と文化—写真家島山直哉の作品を中心に コメンテーター 林潔 （文藻外語大学研發長）
14:20-15:00	発表者 黃佳慧 （文藻外語大学兼任助理教授） 「もののあはれ」の中国語訳をめぐって—その本来の語意・各作者による趣意・宣長による釈義	発表者 方斐麗 （文藻外語大学助理教授） モダリティ形式の特徴から見る日本語の「だろ」と中国語の“吧”	発表者 鄭恩英 （文藻外語大学専案講師） 遠距教學之學習成效探討—以文藻韓文—課程為例	発表者 傅玉香 （屏東大学副教授） 台湾を旅する紙芝居文化—受容・変容の観点からの考察	発表者 李嫻蓉 （文藻外語大学助理教授） 日本の原子力政策に関する—歴史社会的考察

	コメンテーター 頼衍宏 (静宜大学副教授)	コメンテーター 頼錦雀 (東吳大学教授)	コメンテーター 陳志文 (高雄大学教授)	コメンテーター 林嘉惠 (東海大学副教授)	コメンテーター 何思慎 (輔仁大学教授)
15:10-15:50	<p>発表者 楊淑容 (文藻外語大学講師)</p> <p>芥川龍之介における後日談—「トロッコ」を中心に</p> <p>コメンテーター 齋藤正志 (中国文化大学副教授)</p>	<p>発表者 黃思璋 (文藻外語大学助理教授)</p> <p>「日本語らしさ」へのアクセント句の影響—連体修飾節を中心に</p> <p>コメンテーター 洪心怡 (高雄第一科技大学副教授)</p>	<p>発表者 謝億榮 (文藻外語大学助理教授)</p> <p>日本語教育における知と体験—文藻の学生における日本での海外企業インターンシップを例に</p> <p>コメンテーター 林蕙美 (高雄第一科技大学助理教授)</p>	<p>発表者 謝宗倫 (義守大学兼任講師)</p> <p>後藤新平の「帝都復興」政策からみる「生物学の原則」</p> <p>コメンテーター 邱若山 (静宜大学副教授)</p>	<p>発表者 陳淑瑩 (文藻外語大学助理教授)</p> <p>国家意識の養成—『公學校地理書第二種』を中心に</p> <p>コメンテーター 陳文松 (成功大学副教授)</p>
16:00-16:40	<p>発表者 姜文姬 (同志社大学博士後期課程)</p> <p>1950年代における炭鉱記録と『にあんちゃん』(1958年)</p> <p>コメンテーター 齋藤正志 (中国文化大学副教授)</p>			<p>発表者 番匠健一 (同志社大学<奄美・琉球・沖縄>センター 研究員)</p> <p>Settler Colonizationに関わる日本・ドイツ・植民地期台湾の知的連関—東郷実と高岡熊雄のドイツ内国植民研究</p> <p>コメンテーター 邱若山 (静宜大学副教授)</p>	<p>発表者 安達信裕 (文藻外語大学助理教授)</p> <p>1904年および1907年の公学校規則改正にみる山口喜一郎の公学校への考え</p> <p>コメンテーター 陳文松 (成功大学副教授)</p>

主催：文藻外語大学日本語文系

協催：One Asia Foundation

後援：教育部